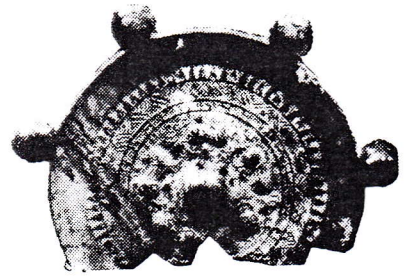


文化財 やまと

大和町文化財保護協会発行



七 鈴 五 獸 鏡

不振を「高齢化」の所為にはすまい

会長 佐藤 光一

近ごろ文化財関係のどの会合に出席しても、目下の最大課題として、会員の高齢化とそれに伴う会員の減少を嘆く声が聞かれる。わが大和町文化財保護協会も例外ではない。

では、なぜ会員数が減少を続けるのか。主な理由は、会員が固定し、若い人たちの入会がないこと。その結果高齢化が進み、足腰が弱くなつて研修旅行に参加できなくなつたので、退会を希望されるという図式によるものである。

たしかに、国宝・重要文化財などを目の当たりにし、その悠久の見事な姿かたち、素晴らしさ、大切さを実感することは私たちの活動のなかで重要な活動の一つである。すなわち、その機会を与えてくれる研修旅行は大切な行事の一つであり、それへ参加できなくなることは誠に残念なことではある。

そうは言いながら、研修旅行に参加できなくなることが、直

ちに文化財保護活動を断念するようになるのだろうか。

現在、大和町には、国・県・市指定の文化財が一二三件あり、名勝・史跡・歴史資料・工芸品・天然記念物・絵画・建造物・考古資料・無形民俗・彫刻・書跡・古文書、それぞれの分野で大切に保存されてきている。

これらの内、たとえば、考古資料三一件五一九点。地元を愛する先輩たちが、生涯にわたる熱情をこめて収集され保存された、他地域には見られない貴重なものもある。このどれ一つをとつても、先人たちの生活の様子を偲ぶことが出来る。文化財展示館で、何時でもこれだけ多くの資料に接することが出来るのは幸せなことである。

次に古文書。明建神社の「七日祭」が少なくとも元禄八年（一六九三）以降ほとんど変わりにくく伝承されていることを示す「祭礼之覚」。郡上藩宝曆騒動を

闘い抜いた郡上農民の生の声が聞こえてくる「則次家文書」九

九点、田代家文書四〇点。明建神社神主粟飯原豊後が遺した文政九年（一八二六）から慶応二年（一八六六）まで日次に記録した『万留帳』。この地域の歴史・文化のみならず、幕末期に我が国が直面した様々な出来事を生のまま示してくれる。この地方の歴史や民俗を知る上で貴重な「大坪家文書」。明治以降の戸長文書・区長文書がほとんど完全な形で残されている「牧区文書」など。

次に東家資料。歌道に関する資料はほとんどが、三上遠藤第三代藩主遠藤胤忠の筆写本である。筆写の時期は比較的新しいものではあるが、古今伝授をはじめ東家歌道の神髄を伝えるものとして貴重である。また、資料の中に『濃北一覽』（写本）など郡上に関する書物が含まれている。江州三上へと領地は替つても、血脈はなくても、旧領郡上への思いを持ち続けたことが窺われる。

これら総てが一旦失われたら取り戻すことのできない掛替えない文化財である。それらを大切に保存し、後世に伝えて行くのが私たち後に続

くものの責務である。

新年度を迎え、私たちは意を新たに改組することにした。今回はやむを得ず会長は留任することになったが、副会長をはじめ執行部は若返り、次の改組への布陣とした。

もとより全会員がすべての年代を結集し、互いに切磋琢磨しなければならぬ。しかし、若い人たちが先頭に立ち、会を発展させることが期待される。

創立四十周年記念として生まれ変わった「東家資料」、「文化財マップ」。会員一人一人が理解を深め、さらに機会あるごとに地域の人たちを啓蒙し、郷里の文化財への理解を深め、愛護の機運を盛り立てたいと願う。

七鈴五獸鏡

岐阜県指定重要文化財

時代 六世紀中ごろ（約一五〇〇年前）

管理者 徳永多賀神社

鏡は、写真のように、全体の四分の一が欠損している。白銅製の鏡面は光沢のある灰色を呈しており、文様のある面は外から鍍刃文帯、連続三角形文帯、偽銘帯があり、その内側に小さな五つに乳と形状不明な五獸を配している。直径一・四センチ、周囲に七つの鈴があつたが、そのうち三個が欠けている。鈴子は小石で、振るとかすかな音を立てる。

2013年 春

大和

本川 喜代士

今年はいつまでも寒気去りや

らず、不順な天候の続いた一年でした。シベリヤからの寒気が5月まで続いたのはここ十数年なかったことです。地球温暖化に、あまりにも無関心な人類に、自然が極端な不順で、挑戦しているような、そんな感じが致します。

山下運平さん

4月2日、会員名簿の最初の人、山下運平さんの訃報がもたらされました。

私は十数年前、大和の人間になつたので、昔の事は知りませんが、元大和村の村長で最後は、岐阜県議会議長とだけの知識ですが、昨年あたり私の主治医の医院で時々お見かけした柔和な好ましいお人でした。ですが噂によると、大和や郡上の発展には欠かせない方で鉄道や道路の建設、人々の育成などに力を発

揮された方とか。

牧から古道まで、俗に言う山下ロードを走ってみました。栗巢への分岐点から古道まで見事に変貌しておりました。ここに山下さんの壮大な野望が見えたような気がしました。古道から小駄良へ抜け明宝まで、山下さんの夢とロマンはもともととと壮大であったのかもしれない。とにかく、一時代の終わりでした。

昨年夏 熱中症に

帰りに通ったフィールドミュージアムではボタン展示を派手に宣伝していましたが、この清掃で恥ずかしい話ですが、昨年熱中症に遭遇してしまいました。東氏館跡庭園の水深はそんなに深くはないのですが粘りけが強く歩行が大変です、ホタルの餌カワニナを大事にしなればならず一歩一歩に汗みどろで

した。前夜の寝不足がたたたり気分が悪くなってしまいました。当日休日だったおかげで救急車の乗客にならずに済んだのは幸運でした。

驚いたことに数名しかいない女性会員の中に民生委員の方が居られたのです。その処置は手早いものでした。フィールドミュージアムの木陰には、冷たい石のベンチがあります。そこに寝かせられ、胸をあげ、頭と首周りに冷たいタオルで冷やされ、両脇に冷えたペットボトルをあてがわれました。処置はそれだけですが、あの暑い中、冷たいタオルやペットボトルを用意されていたのには参りました。あみだ傘の風があんなにも心地よいとは初めての経験でした。ずっと風を送り続けてくれたのは、滝日一正さんの代わりで、理事になられた斉藤武生さんでした。恐縮して風送りは途中でやめてもらいましたが作業が済んでから私の車を運転、私を自宅まで運んでくれました。返す返すも恐縮の数々でした。帰宅後暫くして副会長田口さんから、病状の確認の電話が入りました。行き届いた配慮でした。お二人とも共に牧の人、フィールドミュージアムを抱える牧は

人材の宝庫なのかな、チラとそんなことを考えました。武生さんの弁によると東氏館跡庭園のホタルは水面にも映えて見ものだそうです。私も一度は拝見したいと思っています。

山田さんの思い出

4月11日驚くべき悲報がもたらされました。「山菜を採ってくる」と出かけた山田真人さんが帰らぬ人となったのです。夜9時頃、佐藤先生から意外な知らせにあっけにとられたというか、途方に暮れたというか……

でも考えてみると一番ショックだったのは先生ではないでしょうか？電話の声が少し異状だったように感じました。「文化財やまと」をA4にしたのもそしてその編集も山田さん主導で動き出したばかりなのに……

山田さんが最後に書いた「文化財やまと」編集後記を読ませて貰いました。メキシコ・タスコ市の子供達やブータン王国など遠くを見つめ我々よりも広く深い考えをお持ちでした。

翌朝、所用の途中、ご自宅に寄らせて頂きましたが、枕元で奥様と話させて頂き「ご自分は死ぬと思わないで亡くなったのだから一番幸せな死に方ではなかったか？」と慰めたつもりでしたが「本人は生きたいように生きてきたのだから幸せだったのでしょうか」との明るい答えだったのですが、本当にそうだったのでしょうか？

お義母さんを看取られたばかりだったので……

俯せになられていたと言うことですが言い換えれば、子供の頃から親しんだ山に抱かれての最後だったのでしょう。そのすぐ脇を流れる神路川の下流の桜並木が満開でした。

お通夜に少し遅れたら大変な人出でした。葬儀場のスペースは満杯、となりの森林組合の駐車場を利用したのですが、溢れた車は路上駐車、分岐するバス通り近くまで続いておりました。式場のロビー、立錐の余地もないとはあのことを言うのでしよう、知った顔、懐かしい人を遠く見かけても、近寄るのは遠慮せざるをえませんでした。

156号線の帰路、八幡から仰いだ大和の空に新月というのか、三日月よりも薄い丸い円の月が赤く輝いて見えました。いつもと違う月に、どうしても山田さんが見下ろしているような気にさせられました。

最後まで元気だった山田さん奥さんの話によると前日に臥龍桜を見に行ったそうです。大和町もぐるぐる回り、何と私共の落部まで通過する際、私の姿を遠目に確認したとのこと。その話に、涙ぐんでしまいそうな誇りを感じました。

告別式は若干人数は減りましたが、それでも隣のパーキングまで溢れておりましたが、意欲な人が同級生だったのに、心む思いました。意外なことがも一つ。遺影の写真をじっくり見させて頂きましたが、70歳と聞いて驚きでした。60代、いや50代といっても良いほどの若々しい笑顔だと思えます。



東林寺由緒

所在地 大和町牧 元兼

日置 康 夫

時に享徳年間（一四五—一五五）東常縁（とうのつねより）の妹に素順尼（そじゆんに）あり、篠脇城西方に木蛇寺あり。栗巢川を挟み「相向い」する位置に寺を開く。東林寺（とうりんじ）と称す。

この寺に住持す。その後妹の宗雲尼（そううんに）跡をとり、之に給仕す。

右、東野州（とうのやしゅう）文書より
戦乱とともに再興（さいこう）ならず、木蛇寺と共に消滅、その年代は定かではない。只「こん日」その誼（よしみ）を尋ねるには、現在する跡地「寺屋敷、坪の内、墓地、埋葬跡」等々あり、周辺一帯は寺と共に相応しい一体となつて構成されている。栄えた頃が充分偲ばれる。

参道と思われる「大門瀬」の名称、解らないのが「灰屋」の呼び名が今も残る比丘尼（びくに）屋敷、テ、鳥街道、かや（茅・萱）の道等々であり、その呼称は時代とともに消えさつてゆ

く。伝え使つた大正末期、昭和初期年代の者達も、同じ様に誰もがその宿命にある。

東林寺の寺運さかん頃、庵主素順尼の父東益之に、「遙か都の空より」として
法の声のあるもしらで徒らに
くらしやすらん峰の松風
とある。乱世に歌に託す父娘の心情、いまも変らず尊いかな。

五百有余年経つても、往時のまま。山容、そして峰の松、偲ぶになお余りあり。感懐一人（ひとしお）を覚える。

消滅した寺の仏達の行方、これとて誰もが案ずるところである。幸い、江戸末期それが判り、世に出る。寺の隣り約三〇〇坪位の所に彦右衛門と言う農家があり、預けられ、無事手厚く保護され、門外不出・他言無用と、全てが実直に守られた。それもやがて時代と共に秘匿の事も解禁。応徳寺に預けられている。

「一体」は地元の社に祀られ、神体として崇められている木造

聖観音菩薩（しょうかんのんぼさつ）。彩色されている。江戸時代に書かれたものに、東林寺脇侍（わきじ）とある。氏子として、一層の畏敬の念でもつて給仕し崇敬されている。

中世に、村全域戦場となり、その時戦死した武士たち、そして名ある武将だけが、武士階級特有の宝篋印塔（ほうきょういんと）と称する墓に納められて、何箇所か畑や原野に建つていた。

子供の頃、その墓の頭部を「珍棒」と呼んで、弄び、よくも罰が当たらず済んだものだ。

原野、畑の中。我々が住み耕す土地に、終焉の地として眠る武士たち、往時を憶い、時に無量の思いがする。

昭和の初期、無縁墓を一ヶ所に集め、供養する運動が興り現在地、恩博寺様の上手に集められた。そして「千丁供養」と称し、ロウソク千丁に火をともし、参加者全員の手送りが為され、「その所作が珍しく、随分と盛大であつた記憶がある。

何宗かは解らない、当時松崎せいとうと云う大先達により主導された。今もその盛況が憶い出される。

先に述べた東林寺屋敷、その上手に幅一間余り、全長参拾有

余間に亘り埋葬跡地がある。その辺りが、昭和参拾年頃まで、どこにも井普請（いぶしん）と言つて、組の者、若いも若きも子供まで総動員で、春一番の大仕事として、水路の補修をした。

今と違い、「土水路」のため、いたるところを補修し、窯土（かまつち）を詰めて、毎年同じ事を繰り返して営繕したものだ。その補修材料の俗に云う窯土、その赤土を掘る所が埋葬地に当たり、今年は何か出るぞと、期待と怖れが半分半分で臨んだものだ。ある年、掘つた所に「埋葬地」そのものが当たり、縦二、横幅一、崩れていない、見事と云より外ない埋葬穴に出会つた。

その底には素焼きの小皿、時には鼈甲（べっこう）の漆（うるし）塗り、「塗部分」だけ残り出土。身分のある人の埋葬跡かと思いを巡らし、往時を偲んだものだ。

俗事と云えばそれ迄、色々の体験が心の成長に作用することの思いを強くする。まして終焉の地に、しかも人足の場での出会い、経験が成長に関りを持つもの、何処であろうが人それぞれに学べると云う。誰かが云つた。「青山いたる処に在る」と。

山田真人さんを偲ぶ

佐藤 光 一

「青天の霹靂」などでは表せない酷いショックを受けた。瞬間頭が真っ白になった。四月十一日の午後三時過ぎ、真人さんの訃報に接した。

真人さんに初めて出会ったのは、私が郡上高校全日制に転勤した昭和三十三年四月、一年一組の英語の授業を担当した時である。その日以来、一回り以上も年齢が違うのに、なんだか馬が合った。再会したのは彼が郡上高校に転勤してみえた時。生徒に対して、厳しいが面倒見の良い教員になっておられた。みんなから慕われておられた。また、ご在職中お忙しい中、大和村史・町史の編纂に携われた。

書きたいことは山とあるが、本会に尽くされたことに限ってもこれだけは書きたい。

定年退職をされるのを待ち構えていて、町史「後編」の編集委員に迎えた。同時に本会の理事になってもらい、会計を担当してもらった。気さくでセンスがよかったので、機関紙「文化財やまと」編集の中心になってもらった。

本場に仕事熱心だった。中途半端なことが嫌いだった。本会創立四〇周年に当たって、前年には、文化財愛護標柱を一六本建て替え、案内板二基建てるのを主動してくださった。記念事業「東家資料のデジタル化」では、百姓仕事や、総代を勤めておられたお寺関係の仕事で大忙しのところ、カメラの取付け器具や無反射ガラスなどの調達をはじめ、何日も撮影に携わってくださった。手前味噌になるが、記念事業が成功裏に完結した。これは彼の働きに負うところが多い。何から何までお世話になった。厚くお礼を申し上げ、心からご冥福を祈る。

文化財保護活動にぜひご参加ください

大和町文化財保護協会

- 昭和46年（1971）7月創設以来40年余りの歴史
- 会長：佐藤 光一（剣） 副会長：斉藤 武生（牧） 金子 徳彦（古道）
書記：細江 幸久（徳永） 会計：森 憲司（福田）
- 現在の会員数：113名
- 地道に、一度失われたら取り戻せない、前人たちの残した貴重な文化財を発掘、保護、活用し、後世に伝えるために活動する。

大和町の文化財

- 東氏館跡庭園（国指定名勝）をはじめ、郡上市内で最古の石器「落部中屋出土有舌尖頭器」、「福田古墳・丸山古墳の出土品」そのほか、市内のほかの地域にはないものを含む貴重な文化財が132件あります。

主な行事・事業

春・秋の研修旅行、総会、会誌「文化財やまと」の発行、東氏館跡庭園池泉・阿千葉城跡の清掃、町内小・中学校、諸団体への文化財保護の普及活動、その他

協会運営各部会

- 事業部会（年間の事業・行事について研究・検討提案）文化財標柱の点検・更新
- 研修部会（研修旅行その他の研修について研究・提案）
- 会誌編集部会（「文化財やまと」研究・調査・編集・発行）

40周年記念事業（23・24年度に実施）・東家資料、大和町文化財マップのデジタル化

<http://www.yamatobunka.saloon.jp/> をご覧ください。

会費：◆正会員 年会費 2,000円 ◆家族会員 年会費 1,000円 ◆研修参加費

文芸欄

短歌

教室の窓

井俣 初枝

畑仕事終えたるのちのここちよさ
春風我を包みて過ぐる

勝ちました 四十七歳七か月
花の声援山本昌氏

一服は花の下にて飲むべしと
花に溺れて生かされている

五指添えて子らのぞきいる炊飯器
母の教えと水深測る

10人の子らと涼しさ活けていく
くれない匂う教室の風



山田真人師を悼む

与謝蕪村「北壽老仙をいたむ」の詩を模して

石神 堯生

君あしたに忽然として去りぬれば
夕べの心千々に乱れり

君思ひ丘の辺に立てば雉子鳴く
愛しき人らと語らふごとくに

神仙の川に沿いたる鄙の里に
七十路住みきて今日逝きませり

たんぽぽの黄になずなの白う咲く
葬儀の路はいかでか寂し

いかばかり名残惜しからむ鮎の瀬に
今年は竿もささずして逝けり

俳句

巢立鳥

寛 明代

水浅く命つないで蝌蚪の紐
青葉闇木洩日といふ隙間あり
荒筵ぜんまい乾して深廂

巢立まで開かずの窓となりけり
若めくあぜ塗り終えし棚田かな

春の雲

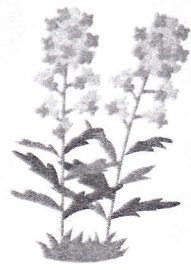
遠藤 富貴子

城の天 日を横切りて 春の雲
花は葉に 波風荒く 竹生島
著莪の花 木の下敷下 陰を出ず
ランナーを 剪る手が外れて 青苺
青葉若葉 包み込まれて 円空仏

夏帽子

鷺見 長子

水の町めぐる一団夏帽子
除草剤撒き梅雨入りに備へけり
農に生く宿命として草を刈る
一行に卯月曇りといふ一日
推敲の座右に置きし蠅叩き



事業報告書

四月一六日(月) 一七七日(火) 春季一泊研修(伊豆方面) 中止
第一回郡上市文化財保護協議会理事会(二四年度諸計画)
第一回執行部会(新年度への取り組み)、平成二三年度会務・決算報告

五月一六日(水)

六月 五日(火)
五日(火)
二〇日(水)

平成二三年度会務・決算報告について、平成二四年度事業計画・
予算案について、四〇周年記念事業報告、会員拡大について、
平成二四年度総会について、会費徴収について
郡上市文化財保護協議会第二回理事會
県文化財保護協会総会、(於・岐阜総合庁舎)
平成二四年度総会(出席者二五名)
① 平成二三年度会務・決算報告、監査報告
② 役員の一部改選について
③ 平成二四年度事業・予算の承認
④ 四〇周年記念事業報告
⑤ 会員 の拡大について

三〇日(土)
七月一五日(日)
二九日(日)
七月 七日(火)
二四日(金)
九月一九日(水)
二二日(金)

① 平成二一年度秋季日帰り研修の計画・実施について
岡崎市(徳川家康の遺跡めぐり)
② 記念事業進捗状況報告など
郡上市文化財保護協議会第三回理事會(文化財愛護標柱の割り当て)
大和は五、①中山薬師 御物石器 外(県)、②多賀神社、七鈴五獸鏡、
外(県)、③円光寺、藤代遺跡出土品(市)、④中神路白山神社、石造
狛犬(市)、⑤大間見諏訪神社、架仏、州浜草紋盤(市)
南公民館ふれあいウォーキング「白雲山散策」案内、参加者六五名
秋季日帰り研修(岡崎)参加者二六名
第三回執行部会 第四回役員会について、その他
第四回役員会、事業・会計中間報告、記念事業成果報告
引き続き懇親会

一〇月一一日(木)
一二月 三日(日)
七日(水)
二二日(木)
二二日(土)
八月 八日(土)

① 平成二五年度春期研修計画
第五回役員会(平成二五年度春季日帰り研修、役員選考委員会報告・
新年度の役員候補者の決定、新年度の諸計画について)
郡上市文化財保護協議会第四回理事會
郡上市文化財愛護標柱の建て替え(佐藤・細川・本川・森・山田、参加)

事業計画(案)

四月一九日(金) 春季日帰り研修(琵琶湖遊覧―竹生島―と湖岸の古刹を訪ねる) 参加
者二六名
第一回郡上市文化財保護協議会理事会(二五年度諸計画等)
第一回執行部会(新年度への取り組み)、平成二四年度会務・決算報
告について、
平成二五年度事業計画・予算案について、副会長候補の選任について、
会員拡大について、平成二五年度第一回役員会・総会について、
「文化財やまと」編集委員会 原稿依頼その外
「文化財やまと」編集委員会 原稿依頼その外
白雲山やすらぎの森 森林ウォーキングの案内(二一時)

五月一三日(月)

六月 二五日(土)
三日(月)
四日(火)
五日(水)

平成二四年度会務・決算報告、平成二五年度事業計画・予算案、副会
長の選任、平成二五年度総会、会費徴収、郡上市文化財保護協議会市
内文化財めぐりについて(担当大和町)
平成二五年度総会
① 感謝状贈呈
② 平成二四年度会務・決算報告、監査報告
③ 役員改選について
④ 平成二五年度事業・予算の承認
⑤ 郡上市文化財保護協議会の詞俵文化財めぐりについて
会報「文化財やまと」発刊(発行部数三〇〇部)
◎ 引き続き「四〇周年記念事業の成果紹介」佐藤光一会長

七月 二日(火)
一日(木)
二八日(日)
八月 七日(水)
二〇日(火)
二九日(木)
九月 二九日(水)
二五日(水)

第二回役員会
郡上市文化財保護協議会「文化財探訪の旅(松本市、松本城・市立博
物館・旧開智学校(広報は八月初旬)」
第三回役員会(平成二五年度秋季日帰り研修の計画・実施について)
郡上市文化財保護協議会の市内文化財めぐり(於・大和庁舎防災研修
室、フィールドミュージアム)大和町文化財保護協会「40周年記念
事業の成果の紹介」
南公民館ふれあいウォーキング
第三回執行部会 第四回役員会について、その他
第四回役員会、事業・会計中間報告等、引き続き懇親会
研修部会(平成二六年度春期研修計画)
第五回役員会(平成二五年度春季日帰り研修、新年度の諸計画)
以下期日未定

一〇月一一日(火)
二六日(土)

郡上市文化財保護協議会第二回理事會
郡上市文化財保護協議会第三回理事會
秋季日帰り研修

会 員 名 簿 (順不同)

平成 25 年 6 月現在

■ 剣	
籾 勝 美 (顧問) 88-2031	
日 置 敏 明 (顧問) 88-2254	
村 瀬 喜 八 88-2128	
加 藤 文 蔵 88-2802	
佐 藤 光 一 (会長) 88-3201	
佐 藤 八 重 子 88-3201	
田 中 和 久 88-2200	
田 中 康 久 88-2200	
高 橋 義 一 88-3792	
河 合 亘 (理事) 88-2358	
河 合 尚 88-2304	
森 前 とし子 (理事) 88-3479	
岩 崎 扶 美 子 88-3521	
河 合 利 雄 (理事) 88-3520	
山 内 博 88-3886	
山 内 悦 子 88-3886	
村 瀬 方 彦 88-2008	
小 池 祐 二 88-4064	
小 池 圭 子 88-4064	
林 千 里 88-3333	
佐 藤 公 子 88-2161	
山 下 妙 子 88-2405	
日 置 智 夫 88-2730	
日 置 武 雄 88-2303	
■ 大間見	
村 井 正 蔵 88-2323	
大 野 一 道 (理事) 88-2230	
大 野 紀 子 88-2230	
野 田 英 志 88-2285	
清 水 一 作 88-3086	
池 田 光 彦 (理事) 88-3090	
小 野 江 勉 88-2725	
松 井 賢 雄 (理事) 88-3991	
藤 代 順 行 88-3060	
青 木 ユリ子 88-3477	
坪 井 由 佳 子 88-3990	
村 井 紀 幸 (理事) 88-2323	
■ 万 場	
畑 中 真 澄 88-2441	
石 神 堯 生 (理事) 88-2413	

稲 葉 和 巳 88-2503	
筧 伸 雄 88-2532	
筧 明 代 88-2532	
黒 岩 弘 己 88-2458	
井 俣 初 枝 88-2758	
青 地 正 男 88-2447	
大 井 正 明 (理事) 88-2894	
大 井 峯 雄 88-2893	
籾 清 子 (理事) 88-4170	
大 井 と も ゑ 88-2893	
桑 田 守 夫 88-2514	
小 倉 義 明 88-3224	
小 倉 津 由 子 88-3224	
桑 田 洋 一 88-2414	
大 中 登 志 枝 88-3624	
■ 徳 永	
水 野 志 づ 子 88-2610	
山 内 孝 一 (理事) 88-2616	
遠 藤 賢 逸 88-2121	
遠 藤 富 貴 子 (理事) 88-2121	
渡 辺 千 恵 88-3280	
村 瀬 弥 治 郎 88-2602	
渡 辺 睦 子 88-2076	
山 内 豊 子 88-2097	
畑 中 文 枝 88-2382	
奥 村 江 美 子 88-2186	
大 坪 成 子 88-2775	
細 江 幸 久 (書記) 88-4157	
■ 神 路	
白 田 浄 円 88-3461	
羽 生 清 88-2271	
山 田 正 代 88-2114	
山 田 味 代 子 88-2844	
山 田 敬 子 88-2336	
白 田 欣 市 88-3883	
白 田 路 子 88-3883	
■ 牧	
金 子 政 子 88-3426	
滝 日 準 一 (監事) 88-2705	
粟 飯 原 明 子 88-2362	
日 置 貞 一 88-2662	

遠 藤 高 真 88-2890	
田 口 勇 治 (理事) 88-3950	
加 藤 一 男 88-2870	
野 田 嘉 明 88-3043	
尾 藤 佐 紀 子 88-2353	
早 瀬 ふ み 子 88-3327	
斉 藤 武 生 (副会長) 88-3922	
滝 日 一 正 88-3064	
日 置 康 夫 88-3788	
松 森 幹 男 88-3919	
三 浦 泰 治 (理事) 88-9080	
瀧 日 千 代 美 88-3059	
遠 藤 伝 司 88-3934	
日 置 光 一 88-3001	
■ 栗 巢	
島 崎 増 造 (監事) 88-2236	
増 田 洋 子 88-4041	
筧 政 之 助 (理事) 88-4031	
野 田 恵 光 88-4027	
■ 古 道	
細 川 優 (理事) 88-2861	
清 水 克 巳 88-2862	
金 子 徳 彦 (副会長) 88-3063	
野 口 喜 代 子 88-3084	
遠 藤 弘 隆 88-3976	
■ 名 皿 部	
有 代 眞 一 (理事) 88-3791	
森 下 正 則 88-3413	
佐 尾 千 下 り (理事) 88-3544	
■ 島	
森 藤 雅 毅 (理事) 88-2684	
奥 田 弘 親 88-2431	
山 田 長 次 88-3648	
田 中 篤 88-2792	
奥 田 昌 明 88-2520	
奥 田 清 子 88-2520	
本 川 喜 代 士 (書記) 88-3833	
本 川 清 子 88-3833	
森 憲 司 (会計) 88-2554	
木 島 清 88-3304	

◆◆◆ 平成24年度 決算報告書 ◆◆◆

(収入の部)

(単位:円)

項 目	決 算 額	摘 要
前年度繰越金	1,064	
会 員 会 費	218,000	正会員2,000円×102名 家族会員1,000円×14名
役 員 会 費	15,000	
40周年記念事業費	50,000	
助 成 金	81,000	郡上市より
研修旅行残金	10,420	
雑 収 入	22,285	定期解約残金 利息など
合 計	397,769	

(支出の部)

(単位:円)

項 目	決 算 額	摘 要
会 議 費	44,011	
総 会 費	6,000	お茶
会 議 費	38,011	理事会 役員会など
事 業 費	251,808	
会 報 発 行 費	63,630	300部(文化財やまと)
奉 仕 活 動 費	15,000	文化財清掃奉仕作業 傷害保険等
研 修 費	7,969	研修旅行 郡上市文化財研修など
文 化 財 研 修	4,369	
活 動 費	20,840	東庄町接待 七日祭り御神酒
40周年記念事業費追加	50,000	東家関係資料のデジタル化
記念事業感謝状関係	20,000	感謝状、記念品、旅費等
周年記念事業積立金	70,000	
事 務 局 費	47,239	
消 耗 品 費	3,909	プリンタインク 印刷用紙 宛名シール 記録メディアなど
通 信 費	12,080	通信用はがき 史料送付代など
香 典	28,000	金子・山田・河合各氏
印 刷 費	750	
資 料 等 送 料 費	2,000	
公 民 館 使 用 料	500	
会費(県・市)	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
合 計	393,058	

◆◆◆ 平成25年度 予算(案) ◆◆◆

(収入の部)

(単位:円)

項 目	予 算 額	摘 要
前年度繰越金	4,711	
会 費	211,000	正会員2,000円×100名 家族会員1,000円×11名
役 員 研 修 費	26,000	役員26名
助 成 金	81,000	郡上市より
雑 収 入	289	
合 計	323,000	

(支出の部)

(単位:円)

項 目	予 算 額	摘 要
会 議 費	15,000	
総 会 費	5,000	講師謝礼 他
会 議 費	10,000	理事会 役員会
事 業 費	190,000	
会 報 発 行 費	70,000	300部
奉 仕 活 動 費	20,000	文化財清掃奉仕作業 傷害保険等
研 修 費	40,000	
文 化 財 研 修	20,000	
記 念 事 業 積 立	4,000	
事 務 局 費	25,000	
消 耗 品 費	10,000	印刷用紙 印刷代 他
通 信 費	15,000	通信用はがき、切手代 等
会 費(県・市)	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
予 備 費	43,000	
合 計	323,000	

収入 397,769 - 支出 393,058 = 4,711円
次年度繰越金 4,711円

平成24年度の歳入・歳出処理について監査を行った結果、適正に処理されていました。

平成25年 6 月 5 日

監事 島 崎 増 造



滝 日 準 一



編 集 後 記

▽第三八号をお届けします。今回は本川喜代士、日置康夫両氏から貴重な原稿をいただきました。多くの皆さんからの寄稿を願います。

▽予期しないことが起こるのが人生です。新体制を発足させた矢先、山田真人さんと永久の別れとなってしまいました。詮無いこととは言え残念です。

▽故人は、本誌四〇周年記念号の編集後記に「大和町史の編纂に関わり、わずか一行の古文書の解読を巡り、二日も三日も激論が続き、その最中に疲れ果てて眠ってしまったことも今は懐かしく思い出されます。時は過ぎ、心を潤すものは、さらに速く流れ去ります。今踏ん張らねばと切実に思います。」と書いておられる。時は速く無情に流れることを実感します。

▽ともあれ、新しい年度が船出をしました。会員一同力を合わせ、若い世代の入会を促し、切磋琢磨して、本会のさらなる発展を期したいと願います。

(さ)